

稿 KŌCHŪ 虫

伊豆諸島三宅島にヒラタクワガタ産す

市川 敏之

ヒラタクワガタ *Serrog-nathus titanus pilifer* S. VAN VOLLENHOVEN は伊豆諸島では大島・利島・新島から記録されているが、筆者は三宅島で採集された個体を採集者の川田一之氏から恵与頂いたので同島初記録として報告する。

1♂, 三宅島大池, 14. VII. 1975, 川田一之採集

なお、同島からは同種以外にミクラミヤマ? *・ノコギリ・コ・スジ・ネプト・マメ・チビの7種のクワガタムンが記録されている。

*) 久保快哉, 西山保典 (1967), 三宅島・神津島を訪ねて, INSECT MAGAZINE No. 66, p.10

(☎114 北区王子本町2-1-17)

北海道利尻島のマグソコガネ2種

石田 正明

昨夏、娘が北海道旅行で利尻島にいった時、数種の甲虫を採ってきたが、その中にマグソコガネが2種4頭あった。いずれも、いままではっきりと記録されていない種と思われるので、ここに記録しておきたい。

採集データはすべて同じで、下記のとおりである。

採集地：北海道利尻島小黒牧場

採集日付：1975年8月28日 採集者：石田ひろみ

1. *Aphodius (Otophorus) haemorrhoidalis* (LINNÉ) ツマベニマグソコガネ

1♂, 体長5mm, 鞘翅の肩部および両翅端は赤褐色, 他は黒色。ab. *sanguinolentus* (HERBST) にあたるものである。牛糞より得た。

2. *Aphodius (Bodilus) sordidus* (FABRICIUS)

ヨツボシマグソコガネ

2♂♂, 体長8mmと7mm, 1♀, 体長7mm, いずれも上翅は肩部と中央後に暗色紋をそなえるが、その発達は悪い。一見したところ原型に近いように見える

が, ab. *quadripunctatus* (PANZER) に同定すべきものであろう。牛糞より得られた。

上記2種はともにアジア大陸北部からヨーロッパにかけてひろく分布する地方型のマグソコガネで、もちろん北海道本島に産することはすでに知られている。したがって、利尻島に産することは当然のことであろう。なお、利尻島の北に位置する礼文島にも牧場があるそうであるから、礼文島にも産することは予想される。

(☎168 杉並区宮前3-23-5)

セマルオオマグソコガネ対馬の記録

小幡 幸正

セマルオオマグソコガネ *Aphodius brachysomus* SOLSKY は比較的少ない種で、分布は北海道・本州・佐渡・九州・トカラ宝島および朝鮮・東シベリア・支那と広いが、対馬における記録はまだないのでここに発表する。

1 ex. (死骸), 北対馬内山牧場, 27. IV. 1974

1日ほどたった牛糞のわきにころがっていた個体で、ひどく破損していた。また、この個体は上翅端に黄斑の出ている型であった。この内山牧場は最近新しくできたものらしいが、他にヒメダイコク・エゾマグソ・スバタママグソ・ウスイロマグソ・マグソコガネ・カドマルエンマなど個体数は多く見られた。

(☎151 渋谷区千駄ヶ谷3-13-12)

ヤクルリセンチコガネ大川林道に多産

藤田 宏

ヤクルリセンチコガネ *Geotrupes (Phelotrupes) auratus yaku* TSUKAMOTO は屋久島特産の亜種で、小杉谷が産地として知られるが、採集例は少なく稀な種とされている。

筆者は1974年夏期に屋久島を訪れた際、下屋久町大川林道にて本種を採集しているので記録しておきたい。

3♂♂ 2♀♀, 屋久島下屋久町大川林道,

30. VII~7. VII. 1974, 藤田宏採集

同地、大川林道は近年クロモンキイロイエ・オガサワラチャイロ等をはじめとするカミキリムシの珍種を多産することで有名となり、この時もかなり多勢のカミキリ屋が同林道を7~8km程登った地点に参集していた。ヤクルリセンチコガネはこれら同地で寝泊りしている採集者の人糞に多く見られた。もとよりカミキリ屋ばかりなので他の糞が見つかるはずもないが、朝 (AM 8:00~9:00) 用をたすと、昼近くにはヤクルリセンチコガネが次々と飛来してきた。特に注意して採っていたわけではないので、専念すればかなり多く採集できるもので